

インフルエンザ新情報

当院の存在する菊池市もインフルエンザが流行してきました。

そこで最近のインフルエンザの情報をまとめてみました。

インフルエンザに罹患すると高齢者が心配するのが肺炎です。従来インフルエンザに続発する肺炎の大半は細菌性肺炎の合併だと理解されてきましたが本当でしょうか？最近の高柳¹⁾の報告では、210 例中、76 例 (36.2%) が原発性インフルエンザ肺炎で、以下混合性肺炎 71 例 (33.8%)、2 次性細菌性肺炎 34 例 (16.2%)、分類不能 29 例 (13.8%) でした。従来いわれてきた以上にインフルエンザウイルスによる肺炎の頻度が多いことが解りました。そして従来、インフルエンザの治療薬であるノイラミニダーゼ阻害剤 (NA) は発症後 48 時間以内に投与することで有効性が認められると言われてきましたが、インフルエンザ肺炎に関しては発症後何日経過していても NA 剤を投与すべきであると述べています¹⁾。また、抗インフルエンザ作用を持つといわれている、抗生剤のクラリスロマイシンと消炎鎮痛剤のナプロキセンを NA 剤と併用することでより良好な治療結果を得ることが可能で、この 3 者併用で死亡率の改善、ICU 入室期間、全入院期間の短縮が得られたことを報告しています¹⁾。

10 代の若者のインフルエンザに伴う症状として注目されているのが異常行動で、特にマンションの高層階からの飛び降り事件などが起きました。一時期タミフルとの関連などが疑われましたが、その後インフルエンザウイルス感染そのものが原因と判明しました。現在、その原因の一つとして、一過性の脳梁膨大部脳症の関与が考えられています²⁾。脳梁膨大部脳症は 2004 年に初めて報告されて以来、同様の症例の報告が相次いでいます。一過性のため血管性浮腫が考えられていましたが、DWI で拡散低下を伴うため、過剰な免疫反応による細胞障害性による浮腫の機序も考えられており、いまだ不明な点が多いです。脳梁は左右の大脳半球をつなぐ交連線維の束であり、左脳と右脳の情報交通を司っています。脳梁膨大部は主に後頭葉から線維が伸びており、後頭葉は空間の認識や言語機能に大きな役割を果たしていることから、脳梁膨大部病変により左右の情報交通が遮断されることで、せん妄や幻覚や見当識障害、異常言動を誘発する可能性が示唆されています³⁾。レジオネラ肺炎などでも同様な精神障害がおこることがあり、この原因も本症であると考えられています⁴⁾。しかし、インフルエンザ罹患時、高熱では朦朧状態になったりすることがあるので過剰に怖がる必要はなく、異常行動や異常言動が連続ないし断続的におおむね 1 時間以上続く場合や意識状態が明らかに悪いか悪化する場合に 2 次、もしくは 3 次医療機関に紹介するように提唱されています²⁾。

さて、現在多用されているインフルエンザ迅速診断キットですが、多くの製品があり、また検体採取方法も咽頭スワブ、鼻汁、鼻咽頭吸引液などあり、また発症からの時間、患者年齢などでその感度、特異度は大きく異なってきますが、これらを網羅した 159 の臨床研究をまとめてみると、感度 62.8%、特異度 98.2%と感度が十分でないことがわかりました⁵⁾。したがって、流行状況や身体所見などによる臨床診断はやはり重要であることが再確

認められました。

来年早々には、新しいインフルエンザ治療薬が登場する予定です⁶⁾。

この薬は開発コード **S-033188** という薬で、成人または小児を問わず、経口による 1 回のみ錠剤の服用で治療が完結するため、利便性が高く、確実な投与が期待できる薬剤です。これまでに実施した臨床試験では、**S-033188** は、既存薬のタミフルと比較して、抗ウイルス効果が高く、投与翌日には **50%**以上の患者（小児を含む）でウイルス力価の陰性化が認められています。また、薬剤との関係性が疑われる有害事象（副作用）の発現率がタミフル®と比較して有意に低く、従来の治療と同等以上の安全性を示すと考えられます。また NA 阻害剤との作用機序が異なりタミフル耐性ウイルスにも問題なく効果を示すことよりインフルエンザの治療が一変する可能性があります。

菊池中央病院 中川 義久

平成 29 年 12 月 27 日

参考文献

- 1) 高柳 昇：インフルエンザに関連する肺炎．日本医事新報 2017；4886；28－39．
- 2) 森島 恒雄：インフルエンザ脳症・Reye 症候群．日本医事新報 2017；4886；40－46．
- 3) 渡部 達：ムンプスウイルス感染による可逆性脳梁膨大部病変を呈した急性脳炎の 1 例．小児感染免疫 2013； 25；433－438．
- 4) 日比野 真ら：可逆性脳梁膨大部病変に伴う失調症状にステロイド投与が奏効したレジオネラ肺炎の 1 例．日呼吸会誌 2011；49；651－657．
- 5) 青木 洋介：インフルエンザ抗原検査は治療開始後どの程度で陰性化するのか？．日本医事新報 2017；4886；64－65．
- 6) 新規インフルエンザ治療薬候補 **S-033188** の国内製造販売承認申請について
<http://www.shionogi.co.jp/company/news/2017/qdv9fu0000018udp-att/171025.pdf>